

益田+景観

Masuda PLUS+ Keikan



【匹見地区の風景】

CONTENTS

益田市は平成 26 年度に景観計画を策定予定です。この景観計画は、そのまちらしい景観をつくるためのルールとなります。平成 21 年度からは近畿大学都市計画研究室の学生が現地に赴き、景観計画のための基礎調査・ワークショップなど、益田らしい景観を探るための活動を行っています。この情報誌では益田市の景観の見所、景観に対する様々な取り組みなど、景観に関わる情報を季刊でお届けします。

【特集】みんなで考える景観	p. 2
益田市が誇る景観	p. 3
景観を支える人たち	p. 4

（**ますだ**
景観
きんだい）

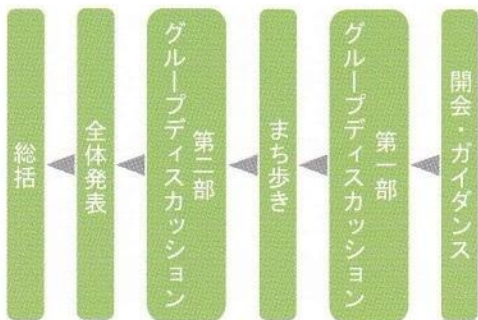
この情報誌は近畿大学建築学部都市計画研究室が作成しています。平成 21 年度から大阪の学生が益田に訪れていますが、益田の人々にとって当たり前の風景も、近畿大学の学生である私たちにとっては、特別な素晴らしい風景なのです。益田景観に対して取り組みを行なう市民の方々や、私たちがこれまでに取り組んできた活動の紹介、益田で感じた魅力を情報誌に収めています。

【特集】 みんなで考える景観

益田市には良好な景観が多く残されています。しかし、それらの良好な景観を保持するためには、多くの市民が景観に関心を持ち、行政と協働していくことが必要となります。景観まちづくりの初めの一步は、何気ない風景に気づくことです。そのきっかけとして、昨年から益田市では景観ワークショップが開催されています。今回は、昨年の12月に益田で初めて開催された、景観ワークショップについて紹介します。

日時：平成22年12月19日（日）
 参加者：30名（+学生9名）
 会場：市民学習センター

ワークショップの流れ



赤瓦が使用された会場の市民学習センター

写真で益田を見る

最初に6グループに別れ、様々な益田市の景観の写真を見ました。自分たちが魅力的だと感じた写真、そう思わなかった写真を選び、グループ内で何故そう思ったのかを話し合いました。赤瓦のまち並みや、生活に根付いた風景など益田特有の風景を大切にしたいという意見が多く出される一方、景観にそぐわない看板や周囲と調和しない建物などの問題点も指摘されました。



写真を選ぶ参加者たち

まち歩き

まち歩きでは駅周辺を歩きました。普段は車で通過することが多く、改めて景観を見直すことが出来、参加者と学生間で意見を交わすことも出来ました。駅前通りには華やかな看板はあまり見られず、歩道は広いですが、空き地が多かったり活気がなく閑散としているといった意見が出ました。



意見を交わしながらのまち歩き

提案

最後にまち歩きで実感したことについて議論を行い、さらに初めに行った議論を踏まえて、「市民」「行政」「その他」の3つの視点から景観の魅力の活かし方や課題の改善方法について議論を行いました。市民が出来る活動としては「市街地に緑を増やす」、「益田の文化や歴史を学び、地域を大切にす意識を高める」等の提案が出されました。



班の提案を全体発表

最後に

ワークショップでは普段、思っているものなかなか口に出すことのない自分の思いを共有することが出来ます。意見交換の場は、自分には無かった新しい視点や考えを見つける機会になります。さらに、何気なく見ている風景を見つめ直すことが新たな魅力に気づくきっかけとなります。それぞれの益田市に対する思いを共有し、仲間を見つけ、行動に移していくことで益田はより良いまちになるのではないのでしょうか。

今年度も益田市でワークショップが開催されますので、足を運んでみてはいかがでしょうか。



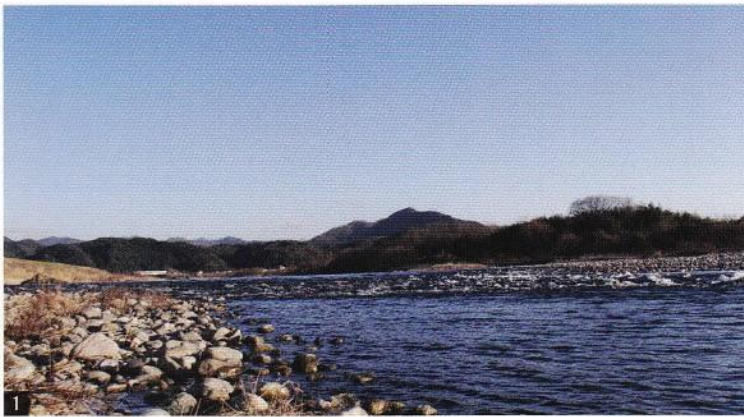
益田市が誇る景観

益田市はかつて城下町として栄え、歴史ある寺社が多く残っており、今でも当時の面影を感じるものの出来る風景が残っています。また、面積のほとんどが森林で占められ、北は日本海に接しています。そこには赤瓦を使用した住居が建ち並ぶ古き良き農村や漁村が多く残っており、各地域に根ざした生活が営まれています。ここではそんな益田市の誇る美しい景観の数々を紹介いたします。今回は益田市の景観を代表するものを集めました。

山、川、海、空

益田市に訪れるといつも澄んだ青い空が迎えてくれます。その空は山の緑を際立たせ、海の青と一体となり、益田市の誇る清流・高津川を輝かせています。

何気ないものの方が美しいのだと、益田の自然は教えてくれます。



1 高津川
日本有数の清流。様々な活動拠点となっており、地域の人々に親しまれている。

2 中垣内の棚田
棚田百選に選ばれており、斜面一面の田園風景の大きさに圧倒される。

3 海岸線に走るまち並み
海と山、赤瓦の色のコントラストが美しい飯浦の漁村集落。



風景を創る 歴史的建造物

益田市内には歴史的な価値のある建造物が多数存在します。そこには新しい建造物には見ることの出来ない佇まい、魅力があります。また地域の歴史を伝える大切な資源であり、まち並みや自然景観を特徴付ける重要な核となっています。



4 美濃地屋敷
旧制元庄屋の美濃地家の屋敷。大きな茅葺きの屋根が緑に馴染み、匹見町の景観の核となっている。

5 ほのほのハウスみと
洋風のモダンな様式と小さな赤瓦の屋根が潇洒な建物を飾る。

6 安富橋
高津川にかかるつり橋。存在感がある一方で、細長くシャープなつくりのため、周囲の景観と馴染んでいる。



景観づくり

に向けて

益田市では、景観計画を平成 26 年度に策定することを目指し、島根県知事と協議を進め、平成 23 年 8 月 1 日に景観行政団体になりました。

景観計画は、景観法に基づき景観行政団体が定めることができる、良好な景観づくりに関する計画です。例えば、調和のとれた美しい町並みをつくるために、景観計画を策定することで、建物を建てる際、高さや色彩、意匠などを景観に配慮した緩やかな規制を設けることができます。また景観にとって核となる建物や公共施設を定めることもできます。

今後、益田らしい景観づくりを市民と事業者と行政の協働で進めることが重要であり、それが益田らしい良好な景観を守っていくことに繋がります。

景観アドバイザー



脇田祥尚 先生

近畿大学建築学部教授
専門は都市計画、まちづくり。技術士(都市及び地方計画)

各地で都市計画マスタープランや景観計画策定に携わる。
主な著書は「みんなの都市計画」(理工図書)など

今を残し、後世に伝える

— 益田東高等学校美術部 —

部長 熊谷 ひかりさん
 副部長 熊谷 歩さん
 美術部顧問 寺井 壽一さん

益田東高等学校の周辺にはたくさんのお古き良き建物がありました。昭和58年の水害の被害を受けたことを機に、それらの姿は少なくなってきました。これを危惧した美術部顧問の寺井先生は「形あるものはいつかは無くなるけれど、何らかの形で誰かが残していかなければならない」と考え、美術部創部以来、高校生と共に益田市の風景を描き続けています。

以前、医光寺のしだれ桜のある風景を描いたそうです。しかし、後に桜の枝が折れてしまい、元の風景が失われてしまいました。その風景は元に戻すことはありませんが、失われる前の一瞬の風景を描くことの大切さを実感しました。

現在、美術部は益田市民にもっと益田市の風景に関心を持ってもらうために、常に景観に触れる事のできる「場」を創つていこうと考えています。実現するか未定ですが、益田駅からグラントワにいたるまでの道に面する建物のウィンド内に常設で風景画を展示するなど、地域住民が常に景観を意識するきっかけづくりを構想しています。

風景や景観は日々移り変わっています。その時その時の美しいものを残し、伝えていくこと、それが益田の美しい風景を守っていくために必要であるのだと思います。



益田の何気ない風景を自身の感性で表現する熊谷歩さん。



部員達が描いた数々の作品。

景観を支える人たち

豊かな景観はそれらをより良くしていこうと考え、行動に移している人たちによって支えられています。益田では様々な団体がそれぞれの想い、目的で景観まちづくり活動を行っています。

守り、育み、拡げる

— 水仙の花咲く里づくり —

鎌手地区振興センター長 又賀 昭さん

鎌手地区には昔から水仙が自生しており、各家庭に水仙を植え、それら売って生計の足しにしていました。そのため地域住民は水仙は昔からあるものとしての意識が強く、水仙の美しさへの関心は薄かったそうです。現在では、鎌手の地域資源として水仙に目を向けて、住民自らの手で唐音水仙公園に水仙を植え、管理を始めています。現在は鎌手の6つの自治会から選ばれたふるさと委員が地域の小中学生やお年寄りと共に、草刈や球根の世話、植えつけを行っています。また、開花期には約一万人の観光客が訪れるので、唐音水仙公園までの道で事故が起こらないように交通整備も行っています。

これらの活動を十五年継続して行なってきたことで、唐音水仙公園の敷地が毎年10アールづつ広がっていくのと並行して人との繋がりも拡がり、今では活動に参加してくれる人は約70名となりました。今後も多くの地域住民を巻き込んで、ただの水仙ではなく、「地域の宝」としての水仙」という意識を地域に根付かせたいと考えています。鎌手の水仙の様にその地にあるものを人々が守り、育てていくこと。そしてそれらを知ってもらうことが景観づくりの一つなのではないでしょうか。



水仙は一重を中心に植栽され、他の水仙より香りが強い。



唐音水仙公園。天然記念物の唐音の蛇岩を有する。

次回の 益田 景観

「益田+景観」は夏、秋、冬、春と季節ごとに発行予定です。今後も益田の地域ごとの美しい風景や景観まちづくり活動等を紹介していきます。

次回の秋号では日本の原風景を感じさせ、地域に根づいた里山景観、10月に開催予定の景観まちづくりワークショップを掲載予定です。



(発行)

益田市建設部都市デザイン課
 〒689-8650 鳥根県益田市常盤町1-1
 TEL: 0856-31-0351
 FAX: 0856-31-1480
<http://www.city.masuda.lg.jp>

(制作)

近畿大学都市計画研究室
 〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1
<http://urbankindai.blog84.fc2.com/>